

《担当者名》歯科クリニック

教授 / 古市 保志 教授 / 長澤 敏行 准教授 / 門 貴司 講師 / 加藤 幸紀
 助教 / 清水 伸太郎 助教 / 松本 光生
 大学病院
 教授 / 川上 智史 講師 / 森 真理 助教 / 尾立 達治 助教 / 小西 ゆみ子

【概要】

歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療（歯内療法）について、模型実習で理解し、修得した基本的事項を応用し、臨床における歯内療法の見直しと治療補にちいて、知識、技能および態度を修得する。

【学修目標】

- 歯髄・根尖歯周組織疾患の診察、診査および診断を実施する。
- 適切なアクセスキャビティープレパレーションを実施する。
- ラバーダム防湿を実施する。
- 根管長測定の必要性を患者に説明し、実施する。
- 根管内細菌培養検査の必要性を患者に説明し、実施する。
- 根管拡大・根管洗浄を実施する。
- 根管貼薬を実施する。
- 根管充填を実施する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	シミュレーション実習	PCT模型上で、電氣的根管長測定器（EMR）を使用して抜髄から根管充填までの処置を行う。 PCT模型上で、ロータリーニッケルチタンファイルによる根管拡大・形成法及び垂直加圧充填法を行う。 (F-7 - 2)、E-3-3)-(2)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 松本 光生 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子
上記以外	外来実習 ・ 登院実習説明・各種器材説明 ・ 根管治療 ・ その他	登院実習説明と保存科外来の各種器材について説明を受け、その使用方法等を理解する。 外来見学、介助及び一部診療を行い、下記の根管治療の内容についての技能、態度を習得する。 ・ 歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の診察、診査、診断ができる。 ・ 適切なアクセスキャビティープレパレーションができる。 ・ ラバーダム防湿ができる。 ・ 電氣的根管長測定器が正しくできる。 ・ 根管拡大・根管洗浄が適切にできる。 ・ 根管貼薬が正しくできる。 ・ 根管充填が適切にできる。 (F-7 - 2)、E-3-3)-(2)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 加藤 幸紀 清水 伸太郎 松本 光生 川上 智史 森 真理 尾立 達治 小西 ゆみ子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

注1：未修了の場合、総合学力試験の受験資格が与えられない。

注2：総合学力試験として当分野領域の多肢選択式問題を出題し、正答率60%以上を合格とする（出題数は別途提示）。

【参考書】

「第3版歯内治療学」医歯薬出版
講義時配布資料
「歯内療法学実習書」北海道医療大学歯学部歯周歯内治療学分野編
シミュレーション実習時には、別に配布する資料を使用する。

【学修の準備】

シミュレーション実習時には、教科書・講義資料と歯内療法学実習書を復習し、実習内容を理解したうえで行う（30分）
参加型臨床実習時には、事前に担当教員と打ち合わせし、治療内容について十分に理解する（60分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を、臨床実習を通じて修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を、臨床実習を通じて身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を、臨床実習を通じて身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を臨床実習を通じて実践する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を臨床実習を通じて身につける（社会的貢献）。

【実務経験】

古市 保志（歯科医師）、長澤 敏行（歯科医師）、門 貴司（歯科医師）、加藤 幸紀（歯科医師）、清水 伸太郎（歯科医師）、松本 光生（歯科医師）、川上 智史（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、尾立 達治（歯科医師）、小西 ゆみ子（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯内療法学は、歯髄・根尖歯周組織疾患の治療を通じて口腔機能の回復の意義、う蝕予防の重要性、さらには歯内療法が口腔のみならず全身の健康に寄与する科目であることを理解する。学術的根拠に加え、実務経験を活かすことで、歯内療法学に関する優れた教育成果をあげることが期待できる教育内容である。